

子育て支援策の効果に関する研究

分担研究者名	浅子 和美	一橋大学経済研究所
研究協力者名	和田淳一郎	横浜市立大学
	駒村 康平	駿河台大学
	山重 慎二	一橋大学
	出島 敬久	上智大学
	前田 正子	ライフデザイン研究所
	新開 保彦	第一生命保険
	松田 茂樹	ライフデザイン研究所
	高橋 桂子	新潟大学
	棕野美智子	日本社会事業大学
	鈴木真理子	岩手県立大学
	山本 真実	子ども家庭総合研究所
	福田 素生	国立社会保障・人口問題研究所
	金子 能宏	国立社会保障・人口問題研究所
	今井 博之	国立社会保障・人口問題研究所
	森田 陽子	国立社会保障・人口問題研究所

研究要旨

本研究会では、子育て支援策を様々な角度から取り上げ、政策的支援のあり方やその効果について多くの分析研究をおこなった。主な争点は、家庭での子育て支援や父親の育児参加の重要性、保育サービス需要の多様化、保育サービス供給の非効率性である。1つめは子育てにおける家族、特に父親の役割の重要性に関する研究であり、父親が積極的に育児参加をおこなうことで母親の育児不安が軽減されることが示されている。2つめは母親の育児と就業の両立支援策としての保育サービスの役割に関する研究であり、保育サービスは母親の就業支援として有効に機能しているが、その供給量の制約が有効性を狭めていることが明らかにされている。また、3つめは保育サービス供給システムの再検討であるが、これは2つめの問題とも関連して非常に重要なテーマである。現在の保育サービス供給システムは非常に非効率であり、これは需要側のニーズに弾力的に対応できない原因ともなっている。対応策として、供給システムにおける市場メカニズムの導入を保育サービス市場の活性化を提案している。